

究

製造の同社は、精造検査を行うクリの管理技術を応用して2年から植物工場化している。室内温を制御した同ルーム、無菌状態で葉を栽培を行い、13年を開始。腎不全やが必要な患者向けラムのリーフレタ栽培も行っており、などからの引き合いには福井工大電気工学科の中尾一成（学）の教員8人が参加や雨水緑化を使っ減のほか、太陽光再生可能エネルギーとして省電力化を図る。促進するため、

また蛍光灯の熱や気流などを調節することで、一つのルーム内に高温と低温の栽培環境をつくり出し、幅広い品種を効率よく栽培できるように。同社は本年度から葉野菜の量産にも取り組んでいる。技術開発センター（鯖江市石田上町）内の既存工場に加え、本社に工場を新設。新工場の生産能力は日産約1

社員を何より大切に



社員満足度の向上などをテーマに講演する西社長
 27日、福井市のユアーズホテルフクイ
 コーディネーター 福井キョウ

西精工(徳島)社長が講演 福井

県経営品質協議会と盛和塾福井は27日、2013年度日本経営品質賞を受賞した西精工(徳島市)の西泰宏社長を招いた講演会(福井新聞社後援)を、福井市内のホテルで開いた。西社長は会社全体を家族と捉え、社員の幸せを追

求する「大家族主義」の重要性を語った。同社は主に自動車用のナットなどを製造している。取引先の海外移転などを受けて「人づくり」を中心とする組織改革を推進。技術力だけでなく、人間力を加味した「マ

イスター制度」など独自の取り組みが評価され、13年には「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」の中小企業庁長官賞を受賞した。

西社長は「人間尊重」「お役立ち」など5項目から成る「創業の精神」を、毎日の朝礼で唱和するなど同社の取り組みを紹介。社員の誕生会や清掃活動など社内行事も多く、社員同士の対話を重ねることでチームワークが醸成されるとして「新しい機械を導入することも大事だが、顧客価値を創造する社員を何より大切にしたい」と述べた。講演は同協議会の会員ら約230人が聴講した。

(宇野和宏)



ら約50人が参加。清川忠理氏が「自社に独自の技を抱えお客さまに納得してもらえような製品づくりを進めてかねばならない」とあいさつし、優秀な人材育成・確保を進めていく必要性を強調した。本年度は県内の工業系校へ熟練技術者を派遣するなどの事業を進めていく。総会に続き、政治評論家田崎史郎氏(坂井市出身)「日本は良くなるか? 安倍権の政治と経済」と題し講演した。